

# 私立大学研究ブランディング事業

## 2019年度の進捗状況

学校法人番号	201003	学校法人名			
大学名	松本大学				
事業名	健康づくりを核に自治体・企業・医療機関と連携して進める元気な地域づくり				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	1640人
参画組織	人間健康学部、総合経営学部、健康科学研究科、地域健康支援ステーション、研究推進委員会、広報委員会、自己点検・評価委員会				
事業概要	健康づくりと地域づくりを連結させた特色ある地域貢献を大胆に展開することを通じて、本学の独創性と卓抜性を確固たるものにする。運動指導を中心とする健康づくりを地域住民及び企業従業員を対象に実施して、体力向上とメンタル面の活性化を図り、医療費や保険料の抑制・削減効果を明らかにする。さらにそれを、自治体・宿泊施設・医療機関と連携して地域資源である中小企業に拡げ、さまざま人が集う元気な地域づくりを実現する。				
①事業目的	<p><b>■事業目的</b> 本事業では、「地域貢献」を研究・教育の基本理念とする松本大学が、30歳代後半の若年層から高齢者までを対象とした「健康づくり」を核に、地域資源である企業、自治体・医療機関・住民等と連携・協力して、地域活性化を強力かつ総合的に推し進める。本学が開発した運動促進プログラムを30歳代から50歳代の企業従業員を対象に展開することで、体力向上とメンタル面の活性化を図り、医療費などの抑制・削減、メンタル面の不調による休退職の増加の防止、少子化で懸念される労働力不足の解消に結び付くことを明らかにする。</p> <p><b>■期待される研究成果</b> 本事業では、「タグフィットネス」と称する仲間意識に訴求した運動促進プログラムを使用して、運動に積極的かつ持続的に取り組むようになり、より高い効果を得る。これを企業職場で継続して行うことで、従業員の体力の維持・増進を図り、併せて職場の人間関係や雰囲気により円滑で良好なものに好転させることができる。それによって、当該職場における罹患率や退職者を減少させ、さらには医療費や保険料の抑制、削減などを実現することもできる。</p> <p><b>■ブランディングの取組</b> 本事業によって、本学独自の双方向的な地域貢献の充実を実現し、「健康寿命延伸都市」を標榜する松本市との連携・協力関係をさらに強固にして、近年多くの大学が異口同音に唱えるようになった「地域貢献」との差別化を図り、他に抜きん出た独創性と卓抜性を確保することで、将来的にも揺るぎない「元気な地域づくり大学」にする。</p>				
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p><b>■実施目標</b> (1) (株)池の平ホテル&amp;リゾートとエア・ウォーター(株)の従業員に対する各種測定と運動指導の実施及び医療費データの整理 (2) 新たに参加する企業従業員に対する体力測定と運動指導の実施及び活動量計データの整理 (3) 松本市立病院の人間ドック利用者の中の運動の必要性を指摘された受診者を対象とする宿泊施設の梓水苑を利用した宿泊を伴う健康指導の実施 (4) (3)の結果を踏まえた、他の医療機関及び松本市郊外浅間温泉の宿泊施設を対象とする本事業への参加要請の企画と実施 (5) 応募した医療機関と宿泊施設に対する本事業の内容説明 (6) 今次の取組を内容とするヘルスツーリズムの可能性に関する検討・研究 (7) 本事業に参加した企業における「健康経営」の効果分析 (8) 健康づくりと健康関連産業に関する公開講座の企画と実施</p> <p><b>■実施計画</b> 取組2年目までの2社の従業員については、実施目標の(1)(2)にある、エア・ウォーター(株)等の従業員の形態・体力測定を本学6号館2階のトレーニングルームにおいて実施し、データを収集し記録した上で活動量計を配布し、さらにアンケート及びPOMS検査を実施する。その後、集団・個別の運動指導を実施するとともに、データ収集用パソコンを適宜配置し2週間に1回程度の頻度で活動量計データを吸い上げ整理する。なお、医療費データの整理等については、昨年度から稼働している本事業推進室の2名の推進室員が進める。 また、(6)のヘルスツーリズムの可能性について、総合経営学部の益山教授を中心に検討・研究し、具体化に向けて企画・立案し実施する。 加えて、今年度が本事業の中間年であることを念頭に、研究・事業の実施状況及び、事業に関する羞恥と長野県内における認知度などについての情報収集と分析を行い、必要と判断すれば、修正、変更を加える。</p>				

<p>③2019年度の事業成果</p>	<p>既述のように、今年度は、本事業の中間年にあたる。したがって、当初計画に記載したように本事業の指向する地域企業従業員を対象とした健康づくりの中核をなす「タグフィットネス」の効果を、昨年度実施した各種測定などから抽出し、それを次年度の全面展開に向けて整理して近隣企業に向けた宣伝・広報の資料とすべく取り組むことが必要であった。また、地域の活性化のための柱の一つであるヘルス・ツーリズムについても、その在り方や進め方について研究を進め、実践に移していくことが求められていた。以下、これらに点を中心に、今年度の事業成果についてまとめる。</p> <p>■事業成果</p> <p>上記今年度の「実施目標」(1)(2)(7)について、(株)池の平ホテル&amp;リゾートとエア・ウォーター(株)の従業員及び利用者を中心に「タグフィットネス」を中核とする運動指導を実施した上で、その参加者102名にアンケート調査を実施した結果、それによる消費カロリーの増加に対して体重が減少したという、両者の間の相関をデータとして明らかにすることができたことに加え、80パーセントを超える参加者から「階段を意識して使うようになった」、「意識して歩くようになった」、「通勤方法をバスから徒歩に変えた」など日常生活に大きな変化があったとの回答が寄せられ、効果を裏付けられものとなった(「松本大学学報 蒼穹」Vol.135 2019年6月 10ページ参照)。</p> <p>また、「実施目標」(6)について、総合経営学部観光ホスピタリティ学科の益山教授を中心に池の平ホテルの協力を得て、11月22日、コンサルティング業を展開している企業の従業員41名に対して「ヘルスツーリズムモニターツアー」を実施するとともに、12月13日には、チェコ国立バルドピツェ大学のマーティン・マスタートルカ教授などを招聘して「ヘルスツーリズム講演会」を開催するなど、今後の展開に向けて大きく弾みをつけることができた(これら二つの事業については、本学ホームページ参照のこと)。この講演会をはじめ、実施目標(8)に関連して、本事業の連携企業である大塚製薬(株)との共催で「健康経営セミナー 2019」を2回開催した。</p> <p>加えて、本事業推進室の近藤壮太推進委員が、5月11日に開催された日本ウオーキング学会において「企業従業員に対する大学の提供する運動促進プログラムの実施とその効果」と題して発表しており、これもまた本事業の成果として記しておく。なお、この発表については、後日、同学会より「若手奨励演題賞」を受賞したことを付言しておきたい。</p>
<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>■自己点検・評価</p> <p>①健康づくり事業の展開</p> <p>上記③「2019年度の事業成果」で述べたように、今年度の事業展開では、「タグフィットネス」を利用した健康づくりにおける動機付け及び身体的効果などについては、100名を超えるサンプルから一定程度の妥当性を立証できたと判断、評価しているが、半面、医療費の削減に関しては、個人データの扱いの難しさもあって現時点(2019年末)では十分なデータを得ることができておらず、この点については今後の課題となっている。</p> <p>加えて、本事業の大きな柱の一つである事業化に関連して、長野県内企業・自治体などに対して推進委員会を中心に本事業の採用を積極的に働きかけたが、費用面で折り合をつけることが難しく、体力測定を採用した松本市など少数はあるものの、さしたる数を確保することができず反省点かつ課題として残ることとなった。</p> <p>②ヘルス・ツーリズムの推進</p> <p>昨(2018)年度ほぼ手付かずであったヘルスツーリズム分野に関して、上記③でも記したように、今年度は「ヘルスツーリズムモニターツアー」と「ヘルスツーリズム講演会」を実施することができ、今後の展開において大きなきっかけとすることができた。今後は、全社で得ることができたアンケート結果に基づいてヘルスツーリズムの可能性についてさらに研究を進め、同時に、参加・協力いただいた企業との連携活動の内容を検討し具体化していかねばならない。</p> <p>③研究分野の取組</p> <p>当分野については、既述のように、近藤推進委員による学会発表を、日本ウオーキング学会より「若手奨励演題賞」を受賞したことと合わせ一つの成果として挙げておきたい。また、これまた既述のとおりであるが、ヘルスツーリズムに関する講演会も、その先進国であるチェコからの参加を得て行うことができたという点で研究的であり、当該分野の成果と考えてよいと判断している。</p> <p>■外部評価</p> <p>外部評価については、地元自治体・企業、健康関連産業、教育関係など本事業に関する多様なステークホルダーによって構成されている「松本大学外部評価委員会」が、8月27日に開催された。同委員会には、昨年度同様内容など紹介済みであり、委員からは、「元気な地域づくり大学をコンセプトにした取組は、全国に発信できる大なる差別化の戦略になると思われ、成果を期待しています。」、「松本市としても、健康経営の定着化により健康意識の高い市民の育成により将来のまちづくりの礎としたいと考えていますので期待しています。」といったように、高い評価と期待をいただくことができた。</p>

<p>⑤2019年度の補助金の 使用状況</p>	<p>事業費については、研究ブランディング事業推進委員会での確認を経て、計画に基づき適正に 執行した。主要経費19,600,000円の内訳は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①研究費:AWDSシステム利用料 542,000円、ソフトウェア開発費800,000円、活動量計 87,000円</li><li>②ヘルスツーリズム関係費用:3,100,000円</li><li>③業務委託費 9,000,000円</li><li>④運動指導補助員等人件費 858,000円</li><li>⑤プリンター複合機代 1,480,000円</li><li>⑥機器備品代 678,000円</li><li>⑦体力測定車(ハイエース)リース料 795,000円</li><li>⑧車両運行費 595,000円</li><li>⑦その他 通信費等雑費等 1,665,000円</li></ul>
------------------------------	---